

大人が楽しむ科学教室 2025

千葉市 科学フェスタ
これからの私たち
2025

申込方法

申込フォーム

2次元コードまたは下記URLからアクセスし、講座詳細ページから申込フォームへお進みください。

<https://www.kagakukanq.com/otonagatanoshimu>

※フォーム送信後、受付完了のメールがGoogleから自動配信されます。参加確定メールではありません。



往復はがき

※はがき1枚につき1講座1名のみご応募ください。

往信面裏側に応募講座名・申込者氏名・住所・電話番号をご記入ください。

宛先 ▶▶ 〒260-0013 千葉市中央区中央4-5-1 きぼーる7階 千葉市科学館「大人が楽しむ科学教室」係

※応募者多数の場合は抽選となります。申込フォームでご応募の方は締切後に当選者のみメールでお知らせします。はがきでご応募の方は返信はがきをご確認ください。

※同一講座に複数回お申込されても1回のお申込として扱います。(申込フォーム・はがき共通)

※講座開始後のご入場や途中退出はできません。時間に余裕をもってお越しください。

※当日残席がある場合は、開始15分前より会場にて受付を行います(先着順)。

会場 10階 探究実験室

対象 高校生以上(テーマに関心のある小中学生の参加可)

定員 各回30名 ※2/21(土)のみ20名

料金 要常設展示入館料(裏面参照)

申込締切 2月講座…1月9日(金) 必着

3月講座…2月9日(月) 必着

2026年2月のプログラム

地球・防災シリーズ

2/7 土

首都圏の地震

～海山の沈み込みと房総半島下の不思議な地下構造～

13:30～15:00 講師 中島 淳一(なかじま じゅんいち)| 東京科学大学 理学院 地球惑星科学系 教授



関東地方下にはフィリピン海プレートと太平洋プレートの2つの海洋プレートが沈み込んでおり、世界で最も特異な領域とされています。海洋プレートの沈み込みにより、1855年安政江戸地震や1923年関東地震などの被害地震が幾度となく発生してきました。今後30年間にM7クラスの地震が発生する確率は70%とされています。本講座では首都圏下の地震活動を概観し、海山の沈み込みが地震活動に与える影響や房総半島下にある不思議な地下構造と大地震の関係など、最新の研究成果を紹介します。

身近な科学シリーズ

2/14 土

コンクリート：最も身近な建設材料と環境問題

～がれきもフードロスもまとめてリサイクル！

13:30～15:00 講師 酒井 雄也(さかい ゆうや)| 東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門 准教授



コンクリートは最も身近な建設材料であり、地球上では水の次に大量に使用される物質です。それゆえに大量のCO₂排出、原料の枯渇、がれき処理問題など、様々な課題を有しています。このような課題の解決に向けて講師は、コンクリートがれきのみならず廃木材、廃プラスチック、廃棄食材など様々な廃棄物を原料として新たな建設材料の開発を行っており、実物を交えて紹介します。また、砂漠や月面など、通常のコンクリートの製造が困難な場所において、現地の砂を主原料とする建設材料の開発も行っており、これについても紹介します。

身近な科学シリーズ

2/21 土

だれでも折紙工学

～折紙をしながらエンジニアリングを体験する～

13:30～15:00 講師 石田 祥子(いしだ さちこ)| 明治大学 理工学部 機械工学科 准教授



折紙は、折る前は平らですが、折ると立体的な形に変わります。折紙の形の変化を私たちの身の回りの製品や技術に役立てる学問を折紙工学と呼びます。本講座では、折紙がどのように私たちの役に立っているのか、明治大学の大学生の研究も交えながら紹介します。難しい数式は使いません。どなたにも折紙工学を楽しんでもらえるよう、講義だけでなく折紙体験も実施します。工学を知っている方も知らない方も、いつもの折紙とはひと味違う新しい折紙をぜひ体験してください。

※本講座は【定員：20名】となります

健康の科学シリーズ

3/7 土

MRI 脳画像からみる こころの病気と認知行動療法の効果

13:30~15:00 講師 平野 好幸（ひらの よしゆき）| 千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター
副センター長・教授（認知行動脳科学部門）
千葉大学病院 認知行動療法センター 教授
大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 教授・副研究科長（千葉校）



最近、摂食症、うつ病、不安症、強迫症など、さまざまなこころの不調に対して、「認知行動療法（CBT）」という考え方と行動の見直しを通じて、気持ちを楽にしていける方法が注目されています。

本講座では、MRI（磁気共鳴画像装置）という医療機器を使って脳の動きを調べる技術を活用し、こころの不調を抱える方の脳がどのように変化しているのかを紹介します。また、認知行動療法が効果を発揮しやすい人の脳の特徴や、治療によって脳の動きがどのように変わっていくのかについて、最新の研究をもとにお話します。

かずさDNA研究所シリーズ

3/14 土

日本人の健康状態 — 過去と現代を比較しながら —

13:30~15:00 講師 谷畑 美帆（たにはた みほ）| 明治大学 文学部 兼任講師 /
明治大学黒曜石研究センター 客員研究員



21世紀の日本社会で生きている私たちは整った医療提供により、さまざまな病を乗り越えてきました。しかし、私たちは昔の人に比べて健康になったと本当にいえるのでしょうか。筋肉着面がよく発達した縄文人からは、活発な活動様相が推定されます。このほか、過去の人たち（お墓に埋葬された被葬者＝人骨）に観察される病気の痕跡から、過去の社会を考えます。

身近な科学シリーズ

3/21 土

細胞はどう動き、どう形をつくるのか

14:30~16:00 講師 野々村 真規子（ののむら まきこ）| 日本大学 生産工学部 数理情報工学科 教授



普段は意識することのない細胞の営みに、少し目を向けてみましょう。私たちの一生は、一つの受精卵から始まります。母親の体内で細胞は分裂し、移動し、協調しながら体の形をつくり、一人の人間として誕生します。その後も細胞は休むことなく働き、成長や再生を支えています。傷を修復し、ときにはがん細胞のように異常な動きを見せることもあります。本講座では、こうした細胞の動きや形づくりのしくみを理解するために行われている研究の一端として、実験や数値シミュレーションによる形態形成と細胞運動の研究を紹介します。

認知科学シリーズ

3/22 日

微生物の“触覚”が教えてくれる深海の世界 — 酵母から探る圧力適応の謎

13:30~15:00 講師 阿部 文快（あべ ふみよし）| 青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科 教授



私たちの知らない深海の世界。そこは水深数千メートル、数百気圧もの水圧がかかる“極限”の環境です。ところが、そんな過酷な場所にも多くの生き物が生きています。彼らはいったい、どうやって押しつぶされずにいるのでしょうか？その謎を解く鍵を、意外にも身近な微生物「酵母菌」が握っていたのです。私たちの最近の研究で、酵母が圧力を感じる“触覚センサー”を持つことがわかってきました。本講座では、酵母の触覚から、生命が高水圧に適応する仕組みと深海生物の生存戦略を探ります。